

## 新医師臨床研修制度下における研修医のメンタルケア

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
北田 雅

平成16年度に新医師臨床研修制度が施行された。従来、医師国家試験に合格し医師として医療活動を行う者には臨床研修が努力規定とされていたが、平成16年以降医師を志す者全員に2年以上の臨床研修が義務化されることとなった。新医師臨床研修制度は、従来の単一診療科で行う高度に専門化されたストレート方式の研修ではなく、日常診療で頻繁に遭遇する疾病に対し、将来の専門分野に関係なく対応できるよう基本的診療能力を修得することを目標とするものとなった。それ故、2年間の研修期間中、内科6カ月、外科、麻酔科、救急、精神科、産婦人科、小児科、地域医療をそれぞれ1カ月以上研修することが求められた。このことは、数カ月おきに異なる診療科での研修が初期研修医に課されることを意味する。こうした新医師臨床研修制度施行後、A病院では毎年数名の初期研修医が心の問題で欠勤に至っており、診療業務の遅延や他の医療従事者への業務負担の拡大等が問題となっている。大学病院であるため産業医や保健管理センター、精神科や神経内科等の専門科を有しており、初期研修医を含めた病院関係者にはその利用が促されているが、ほとんど利用されてはいないのが現状である。また、欠勤に至らずとも、初期研修医の心の問題は看過される問題ではない。何故なら、そもそも初期研修医はその手技・知識は未確立であり、心の問題はヒヤリハット事例に直結しかねないとも言えるからである。医療の担い手である初期研修医がよりよい環境で研修を継続可能であるメンタルサポート環境整備は急務である。しかし、現状では研修医の心の問題については、ほとんど対策がなされていない。そこで、今後の初期臨床研修医のメンタルケアサポート環境の整備・向上に資する情報を得ることを目的として、以下の研究を行った。A病院で初期臨床研修を修了した医師を対象として、初期臨床研修当時におけるストレスの要因や時期、病院側に求める体制について、アンケートを行い、この調査で明らかになったストレスの要因や時期、病院側に求める体制について、定量的に解析した。その結果、A病院での初期研修医の3割以上が研修当初3カ月以内に、最も強く悩みやストレス・不安を感じていた。さらに、職業性ストレス簡易調査票で用いられている標準集団とA病院初期研修医群とを比較すると、仕事のコントロール度や技能の活用度が有意に低く、自覚的な身体的負担度や職場の対人関係でのストレスが有意に高いという結果や、活気は有意に低く、イライラ感、疲労感や不安感、抑うつ感が有意に高いという結果が得られた。更に、上司や同僚、家族や友人などの周囲のサポートも有意に低いことが明らかとなった。また、研修医は医師への相談ではなく、院内相談センターや研修スタッフにおいて、専門スタッフによる相談を希望していたことも明らかとなった。